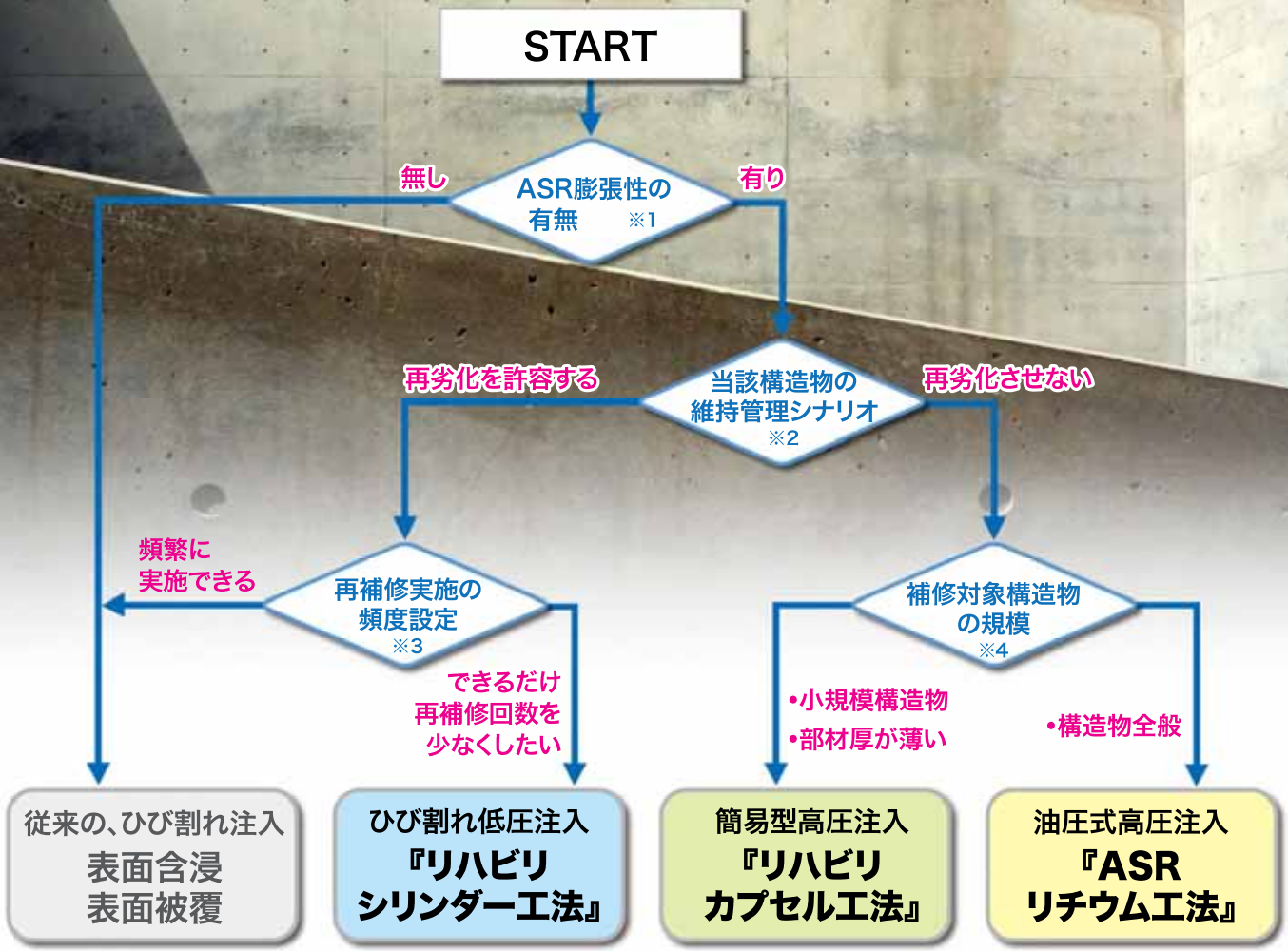


亜硝酸リチウムを用いたASR補修工法の選定フロー



1 ASR膨張性の有無

●ASR補修対策の基本方針は、ASR膨張性の有無によって大きく異なります。ASR膨張性の有無は一般的に残存膨張量試験にて判定されますが、外観変状の進展状況などから判断することもできます。

2 構造物の維持管理シナリオ

●ASR膨張が今後も進行する構造物においては、以下の2つの維持管理シナリオが考えられます。

- ①補修後のASR再劣化を許容し、再劣化が生じる度に補修対策を講じる維持管理シナリオ。
- ②ASR再劣化を生じさせない補修工法を適用し、以後のメンテナンスを不要とする維持管理シナリオ。

3 再補修実施の頻度設定

●ひび割れ注入や表面含浸、被覆などの工法では、ASR膨張を根本的に抑制することは困難ですが、それらの補修材料に亜硝酸リチウムを併用することで、再補修実施の頻度、回数の低減が期待できます。

4 補修対象構造物の規模

●亜硝酸リチウムをコンクリート全体に高圧注入することで、ASR膨張を根本的に抑制することができます。このとき、対象構造物の部材寸法や部材厚さによって「簡易型」と「油圧式」を使い分けます。